年間授業計画　様式例

高等学校　令和8年度（２学年用）　教科　　　地理歴史　　　科目　日本史探究

教　科：　地理歴史　　　　科　目：　　日本史探究　　　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2　学年　AB 組　D組　E組

教科担当者：（A組：駒田）（B組：）（C組：駒田）（D組：駒田）（E組：駒田）（F組：駒田）

使用教科書：（　山川『詳説　日本史探究』　　　　　　　　　　）

教科　地理歴史　　　　の目標：

【知　識　及　び　技　能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目　日本史探究　　　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・我が国の歴史の展開に関わる諸事情について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在との繋がりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想した事を効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1 学 期	A 単元 １章　日本文化のあけぼの 【知識及び技能】 ・打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにすることができる。	・指導事項 １章 １節　文化の始まり ・教材 山川出版　『詳説　日本史探究』 帝国書院　『図説　日本史通覧』 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 【思考・判断・表現】 ・黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	2
	B 単元 １章　日本文化のあけぼの 歴史資料と原始・古代の展望 ２章　古墳とヤマト政権 【知識及び技能】 ・水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身に付ける。 ・古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ・遺跡から出土した木簡の記載内容をもとに、文書主義を特徴とする律令制のもとで人・物・情報がどのように移動していたのか、多面的・多角的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出すことができる。	・指導事項 １章 ２節　農耕社会の成立 ①古代社会と海外と交流 ②木簡から古代国家を探る ２章 １節　古墳文化の展開 ・教材 山川出版　『詳説　日本史探究』 帝国書院　『図説　日本史通覧』 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 ・中国の歴史書の記事をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 ・国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 ・木簡の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。 ・中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	6
		定期考査					1
	C 単元 ２章　古墳とヤマト政権 ３章　律令国家の形成 【知識及び技能】 ・飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解することができる。 ・律令にもとづく国内統治体制について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ・律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにすることができる。	・指導事項 ２章 ２節　飛鳥の朝廷 ３章 １節　律令国家への道 ２節　平城京の時代 ・教材 山川出版　『詳説　日本史探究』 帝国書院　『図説　日本史通覧』 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。 ・隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 ・平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。 【思考・判断・表現】 ・仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。 ・天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 ・文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。 ・平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	6
	D単元 ３章　律令国家の形成 ４章　貴族政治の展開 【知識及び技能】 ・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ・東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。 ・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ・関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・国司の在り方や徴税方式の変化、武士の出現など、地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治・社会に与えた影響を明らかにすることができる。	・指導事項 ３章 ３節　律令国家の文化 ４節　律令国家の変容 ４章 １節　摂関政治 ２節　国風文化 ３節　地方政治の展開と武士 ・教材 山川出版　『詳説　日本史探究』 帝国書院　『図説　日本史通覧』 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。 ・東アジアとの関係の変化や社会の変化と文化との関係などに着目して、平安遷都前後の諸政策や平安初期の文化の変容を理解している。 ・藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 ・大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。 【思考・判断・表現】 ・蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察し、根拠を示して表現している。 ・奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 ・文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。 ・国司の在り方や徴税方式の変化、武士の出現など、地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。	○	○	○	6
		定期考査					1
2 学 期	E 単元 ５章　院政と武士の躍進 歴史資料と中世の展望 ６章　武家政権の成立 【知識及び技能】 ・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ・鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究する。	・指導事項 ５章 １節　院政の始まり ２節　院政と平氏政権 ①絵画から中世社会を探る１ ②絵画から中世社会を探る２ ６章 １節　鎌倉幕府の成立 ・教材 山川出版　『詳説　日本史探究』 帝国書院　『図説　日本史通覧』 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 ・平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。 ・『年中行事絵巻』『一遍上人絵伝』『洛中洛外図屏風』を比較して、様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。 ・諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 ・複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。 ・幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。 ・鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	6
	F 単元 ６章　武家政権の成立 ７章　武家社会の成長 【知識及び技能】 ・承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ・モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ・琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ・非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 ・伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出す。	・指導事項 ６章 ２節　武士社会 ３節　モンゴル襲来と幕府の衰退 ４節　鎌倉文化 ７章 １節室町幕府の成立 ・教材 山川出版　『詳説　日本史探究』 帝国書院　『図説　日本史通覧』 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 ・公武関係の変化やユーラシアとの交流などに着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。 ・鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。 【思考・判断・表現】 ・家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。 ・鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。 ・武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	7
		定期考査		○	○	○	1
	G単元 ７章　武家社会の成長 【知識及び技能】 ・諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ・武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ・庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究する。	・指導事項 ７章 ２節　幕府の衰退と庶民の台頭 ３節　室町文化 ４節　戦国大名の登場 ・教材 山川出版　『詳説　日本史探究』 帝国書院　『図説　日本史通覧』 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭して村などの自治的な単位が成立したことを理解している。 ・経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における多様な文化の形成や融合について理解している。 ・守護大名と戦国大名の権力の相違点などについて諸資料から情報を読み取り、戦国時代の大名による領国経営の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ・自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・戦国大名による富国強兵策に着目して領国統治の特色を諸資料から考察し、堺や博多など都市の発展にみられる戦国時代の社会の多様性を表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・室町時代の宗教や文化の特徴について、鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとしている。	○	○	○	6
	H単元 ８章　近世の幕開け 歴史資料と近世の展望 【知識及び技能】 ・織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ・生類憐みの令として知られる一連の法令から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ・資料から適切に読み取った情報をもとに、近世の特色についての仮説を表現して展望する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・戦国時代までの社会の在りかたと比較し、近世がどのような社会に変わったのかについて課題を主体的に追究する。	・指導事項 ８章 １節　織豊政権 ２節　桃山文化 生類憐みの令から見る江戸時代の社会の変化① 生類憐みの令から見る江戸時代の社会の変化② ・教材 山川出版　『詳説　日本史探究』 帝国書院　『図説　日本史通覧』 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。 ・桃山文化が幅広い国際性をもちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、諸資料から情報を読み取り、理解している。 ・法令の内容を適切に読み取り、生類憐みの令が出された当時の社会の雰囲気について、文芸作品との関わりも踏まえて理解している。 【思考・判断・表現】 ・織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・生類憐みの令が出された時期の諸政策や国際的な環境の変化をもとに、江戸時代の特徴を多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	○	○	○	6

３学期		定期考査		○	○	○	1
	I単元 9章　幕藩体制の成立と展開 【知識及び技能】 ・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ・被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 ・幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。	・指導事項 ９章 １節　幕藩体制の成立 ２節　幕藩社会の構造 ・教材 山川出版　『詳説　日本史探究』 帝国書院　『図説　日本史通覧』 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。 ・幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 【思考・判断・表現】 ・織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・新たな支配制度のもとにおける人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察し、そのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	4
	J 単元 ９章　幕藩体制の成立と展開 １０章　幕藩体制の動揺 【知識及び技能】 ・諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。 ・全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。 ・経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ・幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ・幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。 ・都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。 ・江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ・幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ・儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。 ・農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ・江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ・儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。 ・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究する。 ・飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究する。	・指導事項 ９章 3節　幕政の安定 4節　経済の発展 5設　元禄文化 10章　幕藩体制の動揺 1節　幕政の改革 2節　宝暦天明期の文化 3節　幕府の衰退と近代への道 4節　化政文化 ・教材 山川出版　『詳説　日本史探究』 帝国書院　『図説　日本史通覧』 ・一人１台端末の活用　等	【知識・技能】 ・諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳期に至る政治の推移について理解している。 ・都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、17世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。 ・幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。 ・幕藩体制下の社会の変容に着目して、宝暦・天明期における新たな学問の確立、各地に設立された教育機関の展開を理解している。 ・政治・経済と文化の関係などに着目して、19世紀初期の経済の動向や江戸を中心とする庶民文化の形成について理解している。 【思考・判断・表現】 ・戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近世前期における幕府の統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。 ・近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。 ・幕藩体制が安定していく中での経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17世紀の文化の特色を明らかにしようとしている。 ・幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。 ・近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について、学問・教育・出版文化や庶民文化を事例としてつながりを見出そうとしている。	○	○	○	16
		定期考査		○	○	○	1
							合計
							70